

福岡市食育推進会議議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成22年8月2日（月）14：00～15：30
- 2 開催場所 福岡国際ホール 大ホール B（西日本新聞会館16階）
- 3 会議次第

1 開会
2 議題
議題1 福岡市食育推進計画の推進状況
(1) 計画の推進状況
(2) 今後の計画推進
議題2 第2次福岡市食育推進計画の検討
(1) 第2次計画の基本的な考え方
(2) その他
3 閉会

- 4 出席委員 福岡市食育推進会議委員
出席委員：24名
欠席委員：4名
関係者：1名
- 5 報道機関取材及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無

- 6 議事概要
- | |
|---------------------|
| 議題1 福岡市食育推進計画の推進状況 |
| (1) 計画の推進状況 |
| (2) 今後の計画推進 |
| 議題2 第2次福岡市食育推進計画の検討 |
| (1) 第2次計画の基本的な考え方 |
| (2) その他 |

事務局	<p>(会長挨拶) (各委員紹介) (職務代理者指名)</p> <p>議題1「福岡市食育推進計画の推進状況」の(1)計画の推進状況について、資料1で説明。</p>
委員	<p>目標値は今年見直すのかなと思っているんですが、0%や100%というのが4つあり、目標値としていかななものかと思います。</p> <p>それと、資料1の直近値の横の矢印は18年から21年までの傾向と考えても良いのですか。資料のグラフの方を見ると直近値だけが書いてあります。全てこんな動きをしているのか、という事が1つめの質問です。</p> <p>あともう1つは、すごく効果が出ているところと、すごく値の離れているところ、例えば、女性30代の毎日朝食を食べている人が、79.7%で目標値が80%という事は、目標はほぼ達成しています。</p> <p>これがどうしてこんなになったのかという事を、もしお答えいただけるならお聞きしたいという事と、非常にかげ離れている数字、例えば高校生の朝食喫食率、68.7%で黒の矢印で下がっているところが、どうしてこういう事になっているのか、どんな努力をされたのかお伺いしたいのですが。</p>
事務局	<p>グラフの矢印の事ですが、初期値に比べて直近値が上がっているか下がっているかで矢印は設定しております。また、改善という意味の場合には白の矢印、悪化の場合には黒い矢印です。</p> <p>経年変化につきましては、調査している項目ごとで、毎年評価をしているものと、途中の経過とか取っておらず21年度を直近の値という事で取らせていただいているものがございます。</p>
事務局	<p>高校生の朝食の喫食率が低下しているという事ですが、原因として考えられるのが、栄養士が小学校、中学校それぞれに配置されておりますが、高校については配置されておられません。</p> <p>それと、学校生活の中で、朝食を食べる機会として、朝の補習であるとか、朝練であるとか、あるいは通学範囲が広いなどによって、朝食を食べるケアが無いのではないかということで、今後の課題というところで、家庭科の先生とお話しながら改善に向けて取り組みたいと考えているところでございます。</p>
委員	<p>数値の出ているものに対してどんなことをやっているかという事までひくくめて、ポイントとなる数値だけでも説明していただきたいという要望でございます。</p>
委員	<p>気になったのが、高校生の喫食率の低さと、体型でやせ・低体重のところ、年齢が18歳～20歳代、いわゆる高校生から高校を卒業した年代になるんですけども、高校生の場合は、学校の授業・部活等の関連で分析があったんですが、はたしてそれだけかなあと</p>

事務局	<p>気になっています。私が心配しているのは、ダイエットとの関連、若い女性に対して、いずれ母親になる体という可能性も含めたところでの指導等、教育的な観点とかもいるのかとも考えるのですが、その辺りの分析はどうなっているのでしょうか。</p> <p>健康づくり財団が18年度くらいに調査しました「若者の食生活と性行動についてのアンケート」によりますと、痩身志向がありますのでそのことが原因と考えられるのではないかと思います。若者のアンケートということで、今、統計を取っている途中でございますので、その分析は更に深めていくつもりでございます。</p>
委員	<p>是非お願いします。やはりその地点に限らず、その後々の体づくりに大きく影響しているのではないかと、とても危惧していますので、この地点、年齢の時だけではなくて、将来的なところも見据えた中での食育の部分是非お願いします。</p> <p>数値の中でやはり気になっているのが、給食の残滓の割合です。小学校は一応目標は達成と数字的には出ていますけど、中学校がなかなか進んでいかない。中学校の給食時間の短さ等も指摘をされて、ずいぶん努力・改善されていると聞いていますけれども、その辺りの分析はどうなっているのか、何が足りないのか、おわかりでしたらお願いします。</p>
事務局	<p>小学校につきましては、栄養教諭か栄養職員が2校か3校に1人配置されております。中学校につきましては、5・6校に1人配置されておる状況でございます。それぞれに、食育の指導等行っています。</p> <p>残滓の指導についても取り組んでいるところでありますけれど、中学生につきましては、年頃としか言いようが無いといえますか、さまざまな工夫をしていながら、献立、あるいは給食時間についても、半数程度、5分延長していただいたんですけども、必ずしも5分延長が残滓低下には貢献していない。</p> <p>いわゆる教職員の取組が大きいのかと考えているところでございます。これも、栄養職員の配置、指導というものが不可欠ではないかと考えておりますけれど、5・6校に1人ということで、なかなか行き届かないところもございまして、そこのところについて、献立の工夫などしながら、残滓低下に向けて工夫、努力をしているところでございます。</p>
委員	<p>7ページの「福岡市栄養成分表示の店の協力店数」というのは、福岡市で、全部で91店舗しか載ってない。しかも努力目標が200店舗ということですが、これはかなり難しいと思うんですよ。普通、例えばフランチャイズとか、全国展開チェーンの外食産業のお店だったら、こういうことをきちんと載せることは簡単でしょうけど、普通の小さな店舗でですね、こういうのを載せろと云って、それは無茶だと思うんですよ。</p> <p>だから、もし、載せたいというのであれば、福岡市の方から、何</p>

事務局	<p>かきちんとした資料を提供をして、載せてくださいとやらない限りは、たぶんいつまで経っても200店舗なんてまずならないですよ。もう少しきめ細かく対応をしていただきたいなと思います。</p> <p>議題1「福岡市食育推進計画の推進状況」の(2)今後の計画推進について、資料2で説明。</p> <p>(1 家庭・地域における食育の推進 の説明) (2 学校・保育所等における食育の推進 の説明) (3 生産者と消費者との交流や農林漁業の活性化 の説明) (4 食文化の継承と国際交流 の説明) (5 食品の安全性確保と食生活に関する情報発信、調査研究の説明)</p>
委員	<p>18年からこの食育を推進してきて、食育に関心のある市民の割合が増えてきたというように実感しております。しかし、今気になるのは、高齢者の方々です。</p> <p>買い物に行けない方、特に一人暮らしの方なんですけど、買い物に行けない方の、行けても保存できるものばかりを買ってきたりとか、そういった傾向にあるとよく耳にします。この中にも「高齢者のための低栄養予防教室の実施」というふうにあるんですけど、これは、具体的にはどういうことをされているのか教えてください。</p>
委員	<p>「低栄養予防いきいき講座」の中で、元気高齢者が調理体験を通して自立できるよう、全国食生活改善推進員が地域住民の高齢者を対象に、例えば「ふれあいサロン」に参加するグループの人達に、自宅でできる正しい健康生活の進め方のお話や、簡単にできる調理を一緒に作り、おしゃべりしながらの食事会をしております。</p>
委員	<p>食進会の方には、とても地域で頑張っていただいております。問題は、その公民館やサロンに出てこれない方々が、ちょっとどんなのかなとちょっと心配しております。食進会の方の数字も、1034人という数字が出ておりますが、目標にはまだまだ数字がありますので、しっかりこの辺も市としても応援していかないといけないのかなあと思っておりますが、出来れば自宅で食事を、きっちと出来ているのかいないのかというその辺を、見ていただくとありがたいなあというふうに思っております。</p>
委員	<p>低栄養予防講座を終えたあと、アンケートをとります。その中の、サプリメントの使用と投薬についての質問で、サプリメントを毎日とっている人がかなりいることが分かりました。</p> <p>また、市販の加工食品の惣菜をよく利用し、食事を作らない人が多いことも分かりました。食事の偏りで、低栄養の人もいるようです。推進員は、お隣さん、お向かいさんの高齢者に少し余分に作った物を一品差し上げる、一皿運動も心ある人は今でも続けています。</p>

委員	<p>どンドンこういうことを頑張っていただけたらと思います。</p> <p>もう1点、ちょっと気になるのは、就学前といいますか、保育園にも幼稚園にも行っていないお子さんをお持ちのご家庭で、もちろん乳幼児からなんですけど、その辺の食事の与え方というのが、若いお母様方が、わかってない方が多いのではないかという気がするんです。本当は、その最初の食事をどうするのかという部分がとても大事だと思いますがその辺は何か対策を考えてはいますでしょうか。</p>
事務局	<p>保健福祉センターで行われております「マタニティスクール」ですとか、乳幼児健診の際には、離乳食の指導というかほとんどの方を対象としたようなものは実施しておりますし、地域でも親子での巡回の時の相談時ですとか、色んなサロン、サークルの中に、保健所のスタッフも参りますし、先ほどの食生活改善推進員の方にご協力、ボランティアの方などにも、民生員さんとか、ご協力いただく中で、早い時期からの食生活の確立ということで、ベーシックな健康教育として実施している状況であります。</p>
委員	<p>活動している事例としまして、「親子ふれあい教室」で乳幼児を対象とした子育て支援講座の中から立ち上がった「にこにこクラブ」（平成4年育児セミナーから結成）を中心に乳幼児期に様々な遊びの体験を通して、親と子が共に育ち合う楽しい「場」づくりができることを願って出発してから15年以上継続されています。</p> <p>当初お母さん達は、わからないなりに活動が、年々、毎年自主学習活動に展開されて、そのお母さん達が、今度は若いお母さん達に伝えるようになってきました。そして、自立した団体になってきて、その自立した団体を応援する中で、乳幼児の離乳食から食事の与え方、ごはんの食べ方、その辺を近隣の保育園・幼稚園の子ども達と連携して交流をしていますが行儀の良さが違うようですよね。保育園・幼稚園で幼児教育を受けている同年代の幼児と、家庭だけでわがまま放題にしている幼児とは、全く態度の違いがわかりますね。人形劇などを一緒に鑑賞します時に保育園や幼稚園の園児を前に、行儀よく鑑賞できています。歴然として、違いが分かるので、親が我が子を注意するようになってきますね。親が注意することによって、ご飯の食べ方などや育児相談について自然に交流の中で生まれてくるように私は感じております。</p> <p>それから、高齢者の在宅については、「ふれあいネットワーク」という形で、色んな、老人クラブの地域団体が、自立して自分達から、「毎月、木曜日の何時から集会所でしましょうね」というようなことの活動をしています。そのときの講座内容は、その人にお任せ。お任せすることによって、あの人の健康状態が悪くなったとか、入院したとか、買い物ができないとかいったことを、みんなが連携しながら、ボランティア団体に協力していただきながら、買い物しているところも見受けられます。</p> <p>公民館にも「おしゃべりルーム」として、12年間皆さんが自発的に「公民館の何曜日の何時から2時間は自由に使っているよ。」</p>

委員	<p>という形で、自然に集まっていたいて、「最近、どうしてるな？」とかあるいは、「あの人はまだ病院に入っているかな？」とか色々言いながら、2時間楽しんでおられるところがあります。</p> <p>それと、「男性料理教室」として、男性が自立して、自分で食事を作ることができるように、食進会の方々に協力していただきながら、男性だけの料理教室をしています。参加者が一品作ったことによつて、「俺、あれに出て良かった。毎日昼はあれで、お弁当買わないようになった。」というような話も聞いております。そういったことも事業報告として申し上げます。</p> <p>保育園では、入園時、できるだけお母さん方も、給食のときに来ていただいて、一緒にお食事を、「こんなふうには保育園では食べさせますよ。」というような食べさせ方とかを、一緒に見たり、したりしています。そういった中で、スプーンにのせる量や入れ方が、「これぐらいでいいんですね。」とかおっしゃるお母さん方で新しい発見をされて帰られる方もいらっしゃいます。</p> <p>また、保育参観等で給食の試食会をしたり離乳食とか、子ども達が日頃食べている食事等も、お母さん方も召し上がって、子ども達の食事ということについて考える場ともなっているようです。</p> <p>あと、地域の乳幼児の方を対象にですね、園庭開放等、今実施しております、そうした中で、食事のこととか、離乳食のこととか、「ミルクを飲まないけどどうしたらいいんだろう」というようなご相談をされるお母さん方もいらっしゃいます。</p> <p>そして、保育園とか公民館とかに出てこられるお母さん方は、まだいいのかなあと私達も感じながら、日々取り組んでおります。</p>
委員	<p>実は、食事につきましての研修会も行いまして、PTAの方にも啓発している部分でございます。ただ、私個人的には気になってますが、食育という中に、飲み物、ジュース類、この頃でいうと、炭酸飲料の砂糖分、非常にすごい量の分が入っています。</p> <p>子ども達にとってはたして、食べ物もそうでございますが、飲み物として何が大事なことだろう、そこらへんも少しこう、やっていく必要が今後ともあるんじゃないかならうかと思っております。</p> <p>子どもの体が糖分でもって蝕まれていく先々のそういった姿が怖くなってまいります。そういった等々今感じております。</p>
事務局	<p>議題2「第2次福岡市食育推進計画の検討」について、資料3と資料4で説明。</p>
委員	<p>「地産地消の推進」というところがあるんですが、資料1の成果指標の中で「地産地消の推進」ということで、どんな成果指標があるのかと見ると、2つだけです。「福岡市の農林水産産業を守り育てるべきと思う市民の割合」と、「学校給食」というこの2つかなと思って見たんです。地産地消というのは、食育では、どちらかという、この政策が食べる側の立場の計画ではないかと思いません。</p>

	<p>食育ということになると、実際に自分の口に入るものの命を頂きながら、身近な命を頂きながら生きていってるんだということを理解させるなら、やはり自分らが口にしてる野菜であり、お米であり、肉であり、魚というのが命をいただいているという実感できる仕組みを作っていただけないかなと思います。</p> <p>また、マーケットで売ってる野菜など、値段だけで食べ物を決めてしまう。これが大半の人じゃないかと思うんですが、そうじゃない価値を高めていく施策、例えば、消費者が地域のものならば少し高く買えるような、高く買ってもメリットがあるような販路であったり、考え方っていうんですか、そこまでの政策を準備していただけないかなと思います。これは要望でございますが、食べる側、育てる側だけに政策が偏っている感じがしました。</p>
委員	<p>地産地消の問題ですね、大きな問題といたしますか、食に関する市民の意識といたしますか注目度、かなり上がってきてるんじゃないかなあという気がいたしておりますが、実際的には、農地の荒廃問題とか耕作放棄地の問題とか後継者不足の問題等々ですね、今現在、農業従事者の平均年齢が67歳でしたか、そういう非常に厳しい状況になっております。</p> <p>その中で、国の方の施策としても食の自給率を50%に、今40%ですが、50%に上げていこうとか、農業についての生産性を上げていこうといういろんな施策がされていってるということでございます。そういうものを1回いろんな形で受け止めながら、今、市民の皆様方が大変ご興味を持っておられる、「こげんしよう」という気になっておられるというこういう状況を受けながら、しっかり私も、市民の方のご理解、あるいは、応援を頂きながら、しっかり農業の中で、農林水産業の中で、次の良い夢を描けるようなものを、施策の中で作って行きたいなと思っております。</p>
委員	<p>やはりせつかくこういう良い計画ができてますね、ただ掛け声で、その現場の方たち頑張ってください、地域頑張ってください、という掛け声だけでもなかなか進みにくい。やはりそこに必要なのはいろいろハードも含めた整備面だと思うんですね。例えば教育委員会で、残滓の割合が減ってきたという中で、小学校・中学校の違いと云ったら、栄養職員の配置の人数等。是非それを進めていく整備のほうですね、施設整備も含めて、たとえば学校の中に、ランチルームを作っていく中で、栄養職員の先生がより指導をしやすい場の設定とかですね、栄養職員とか栄養教諭をこれから教育委員会としてきちんと増員を図っていくとかですね、そちらのほうもやはり合わせて、是非行政として進めていっていただきたいという要望です。</p>
委員	<p>おかげさまで、給食の残滓につきましては、学校の現場の先生の取り組みですね、だいぶ改善してきたところです。さらに進めるためにはですね、いろんな重点整備が必要でございますので、そういったハード・ソフトいろんな面があると思いますけど、そういつ</p>

委員	<p>たものについて、検討して、実現できるように努力をしていきたいと思いをします。</p> <p>最初に現状の推進状況の話を伺ったんですが、なぜそれが進まないかという原因の分析はなされているのでしょうか、ちょっと疑問に思いました。</p> <p>例えば残滓がなかなか減らない、食べ残しが多いのはなぜかと、その原因って言うものが何かって言うことは、分析をされているのでしょうか。そうでないと、そのための対策が打てないんじゃないんでしょうか。</p>
事務局	<p>給食残滓につきましてはですね、これまでさまざまな工夫をしてきております。献立の工夫であるとかですね、昨年からは始めました、福岡市独自の栄養基準を策定したりですね。</p> <p>といいますのが、全国平均に比べて福岡市の児童生徒というのは、若干体格が少なめ、小さめであるというのがわかりまして、それに合わせた栄養量を福岡市独自で策定し、給食の献立を実施するであるとか。</p> <p>また、真夏というか、1学期の暑い期間というのは、なかなか食が進まないというのもございます。そこで少なくとも1学期間は少なくするだとか、そういう工夫をしてきた結果、残滓が減ってきたという成果がございます。</p> <p>それと献立の工夫とかですね、そういうこともやってきております。そういう中で、少しずつ減ってきているのではないかと考えております。それと更に、給食指導といいますか、食育の指導を今後とも進めながらですね、そういう原因も含めながら考えていきたいと考えているところでございます。</p>
委員	<p>すみません。対策をお聞きしたいわけじゃなくて、なんで子どもが残すのか。たった今の話は、残滓ならそうですけど、じゃあ、朝食を食べない理由は何になるのか。アンケートを取られたと思いますけど、その時に、じゃあなぜ朝食は食べないのか、時間が足らないのか、朝起きるのが遅いのか、色々あるかと思えますけど、そういう個人個人ですね、個々の原因がどんなのが多いのかっていうのが取られてるかっていう話をちょっとお聞きしたかったです。</p> <p>この項目、色々ありますと、その項目についてそれぞれに、そういう実際それを行う人、なんで痩せたいのかというのは、理由があると思えます。食べると太るからなど色々あるかと思えますけど。それらを含めて原因がわからないことには、それに対する対策を打てないということで、ご質問させていただきました。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。実は、生活習慣についてですね、調査を3年に1度やっております。</p> <p>今年度を実施する予定でございまして、その3年前にした結果に基づいて、色々対策をたて、今年度調査をしてですね、その傾向を基に、また更に対策を打っていくということで考えているところで</p>

<p>委員</p>	<p>ございます。</p> <p>残滓の原因として、昨年の会議の時に、中学校の残滓が非常に多いということで、その原因は子どもたちが給食をとる時間が足りないと聞きました。原因が、時間が短くて食べ残すのであれば、授業時間の兼ね合いもあるのですが、もう少し時間をとる工夫を考えてほしいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>中学校の給食時間というのは、昨年以前は30分で行っていただきました。給食時間が足りないという調査結果が出まして、全校中学校含め、全校5分間延長していただいて、35分にする予定で行っていただきました。ところが、昨年4月に、勤務日制が15分間、週、勤務時間が短縮になりまして、その15分の影響が大きく、5分間延長することはできないという学校が約半数ございまして、他の半数については約30校ぐらいですけれども、30校ぐらいは35分に延長していただいたということでございまして、いろんな工夫をしていただきました。あとの30校については今要請しているところです。</p>
<p>委員</p>	<p>最後に感想を申し上げます。福岡市は若い方が多い、大学が沢山あるということもあって、若い方が多い傾向です。そのために、若者の、20歳前後の人たちの食育がベースになってるのかなあと思いますが、各大学の食育担当がおられるのかなあ、という気がします、それが1点。</p> <p>それから、保育所、幼稚園、小学校、中学校は来ていただいているんですが、高校の先生がおられないので、そこが少し気になります、それが2点目。</p> <p>3点目は、高齢者、特に男性の高齢者、単身高齢、この人たちの健康はどうなっているのかとか、料理技術もないおじいさんたちをですね、単身になられた方はどうしているのかなと、高齢難民、買い物難民ですね。</p> <p>いわゆる若者と、高齢者とに何か少し問題点があるように思いました。</p> <p>本日は、熱心なご協力いただきまして、ありがとうございました。</p>